

あしたの達人

子供には体に優しく、高級感のある服を着せたい——。こんなママの思いが詰まった京都発の子供服ブランド「GALKIDS（ギャルキッズ）」が、人気テレビドラマに出演する子供の着る服に使われ、注目を集めている。製造・販売する下京区の有限会社「リリーフェイド」（075・352・6200）の代表、坂平和代さん(33)＝東山区＝は「京都らしさを取り入れた高品質の服をこれからも提供したい」と走り続ける。

子供にも高級感ある服を——一気に表舞台へ

『僕と彼女と彼女の生きる道』『プライド』（以上フジテレビ系）『こちら本池上署』『サラリーマン金太郎4』『砂の器』（以上TBS系）。1～3月に放映された五つの番組にギャルキッズの子供服が登場した。メーカーにとってドラマに採用されるこの広告効果は絶大だ。

「大手と違って宣伝広告費をかけられません。テレビ局とのコネもありませんでした。テレビ局側は、お客さんの口コミや会社のホームページでうちを知ったそうです。よそにない商品の特長が認められたんだ、と素直に喜びたい」

子供服製造販売会社
リリーフェイド代表 坂平 和代さん(33)



10年後は？

目指すは「シャネル」や「プラダ」。世界に通用するブランドになるまで妥協はしません。性格は丸くなっていないでしょうね（右が坂平さん）＝下京区で

約300万円の自己資金があった。約半年間、場所選びなどに奔走。00年3月、下鴨のマンション1階の4坪ほどのスペースに店を構えた。最初は輸入物を中心に扱った。

「チラシを配ったのは店の周りだけでしたが、売れて売れて毎日がまるでバーゲンセールのようにでした。よそにない物をそろえているという評判が口コミで広がったのかなあ。自信が付きました」

者、デザイナー、製図をするパートナー……。それぞれの人に分らないことを根ほり葉ほり尋ねました。アドバイスは素直に聞きました。デザイナーだけは妥協しませんでした。中学時代、美術のカラーリングのコンテストで入選したことがありました。自分で言うのも何ですが、色の取り合わせを考える素質はあったのかな」

「子供服メーカーの多くは少子化の影響で苦戦している。収益面を考えると、前年に売れた商品を基にマイナーチェンジで乗り切るしかない。守りに入っているように思えました。でもギャルキッズはまったく別の物を作ろうというコンセプトから攻めの発想で考えたブランド。価格は少々高くてもいい。周りのプロからは怖いもの知らずとみられたでしょうけど……」

オンラインワン京都発

京都生まれ。高校卒業後、看護学校を経て看護師になった。94年結婚。翌年、勤めていた病院を退職し、96年に男の子を出産した。子供が1歳のころ、当時右京区にあった自宅近くの子供服店でパート勤めをした。

「お母さんたちが選んでいた子供服のデザインは、いかにも子供っぽい、と感じました。自分の手にはもっと大人びた高級感のある服を着せたいと思った」

「知り合いのお母さんに聞いたら、みんな同じような思いを少なからず持っていました。妥協して買っていたんですね。だから自分で作ってみようと思ったんです」

営業が軌道に乗り、自社ブランドの商品づくりに取りかかった。第1号の冬物ジャケットを披露するまで2年近くかかった。

「恥ずかしい話ですが、服がどのようにして作られるのかについての知識がまったくありませんでした。縫製工場の担当



『こちら本池上署』で「モーニング娘。」の加護亜依さんが着たのと同じ服を5月1日まで店内で展示中。オークションボックスを置き、高い額の人に販売する。収益はカンボジアの小学校建設に取り組むオフィス用品販売会社「カスターネット」に贈る予定だ。

(内屋敷 敦)

服に付けるブランドネームは、化学薬品のプリントを使わず、肌に優しい藍がコヒー豆を原料にして染める。現在、縫製は府内の2カ所の工場に依頼。昨春からは、和柄を取り入れた商品も続々と打ち出している。

「取引のある府外の業者からよく言われました。『京都の会社とは今まで取引がなかった』『京都はすごく不景気だけど大丈夫なの』と。これが京都の現実だと肌で感じました。京都で生まれ育った人間として、京都を元気づけられるように、これからも『メイド・イン・京都』にこだわっていきます」